

聞くということ

阿川 佐和子
あがわ さわこ

目標

● 言葉をとおして自分と相手を理解する。

人の話を聞くのは労力を要する行為です。相手が話し上手で、放っておけば自然に話が進む場合は、合間にあいづちでも打ってあげればよいでしょうが、会話がギクシャクしたときは、必死に頭をめぐらせて質問や話題を探さなければなりません。だから、たいていの人は他人の話を適当にしか聞いていないのです。人間の脳は自分の周囲で発せられる音や言葉を都合よく取捨選択するようにできています。読書や勉強に夢中になっているときや、好きな遊びに没頭しているときなど、周りの会話がまったく気にならなくなることがあるでしょう。

「聞いてなかったの？ 私の話！」

突然叱られて、いや、聞こえてはいたけれど頭に入っていなかった、なんてこと

はよくあります。でも、ときには一生懸命、人の話に耳を傾けるのもいいものです。

「聞く」という行為は、ただ相手の話に耳を傾けるだけでなく、「問う」行為も伴います。「聞く」ことよって疑問がわく。わいた疑問について相手に「問う」ことで、さらに話が広がって、会話はおもしろくなっていく。あるいは相手の話に出てきた言葉がきっかけとなり、忘れかけていたことを思い出す場合があります。相手の言葉が胸に響いて、自分の心がごそごそ動き出す。自分一人で考えていては、とうてい思いつかなかった解決策を見いだすかもしれない。それを繰り返すことにより、人は生きている楽しみと喜びと、そして大切な気づきを得るのです。

私は長い年月、雑誌の対談やテレビ番組の司会を務めるなど、「聞く」ことを仕事にしてきました。だから、聞くのが得意にちがいないと思われがちです。でも正直なところ、私は人に話を聞くことが必ずしも好きではありません。だって大変なんだもの。そう答えるとみんなに驚かれます。

「え、好きじゃないのに、『聞く』仕事を続けているの？」

そりゃ驚かれますよね。でも、せっかく出会った仕事です。できれば上手にやり遂げたい。みんなに「よくがんばったね。」と言われたい。その一心で続けてきました。そして最近、思うのです。必ずしも得意だとか好きだとかいう理由がなくて

もいい。苦手だからこそ必死になる。必死になるから相手の話が深く心に入ってきて、いつのまにか自分が元気になっていくことに気づいたのです。

そりゃ最初は緊張するし、怖いですよ。でも真摯な気持ちで聞こうという態度が伝われば、相手は必ず心を開いてくれます。聞いて、問うて、素直におもしろがって、もし相手が悲しみのどん底にいたら、同じ悲しみを体験することはできなくとも、そばに寄り添うことはできるはずですよ。

相手の心を開くだけではありません。自分の脳みそが動き出し、空想が広がって、想像もしなかった新しい興奮や感動を覚えるにちがいありません。

『くまのプーさん』や『ちいさいおうち』の翻訳を手がけた児童文学者の石井桃子さんが、子どもたちへ宛てた言葉が残っています。

15

10

5



真摯
真面目でひたむきなこ
と。

石井桃子

一九〇七—二〇〇八
埼玉県に生まれた。児童
文学の作家・翻訳家。

子どもたちよ

子ども時代を　しっかりと

たのしんでください。

おとなになってから

老人になってから

あなたを支えてくれるのは

子ども時代の「あなた」です。

私はこの言葉が大好きです。確かに今の私の体には、子ども時代に経験したたくさんさんの事柄ことごとがいっぱいつまっていると実感したのです。うれしい思い出だけではありません。悲しかったこと、寂さびしかったこと、悔くやしかったこと、つらかったこと、嫌いやだったことなども全て、体の奥おくの引き出しにしまい込んでいます。

ふだんはそんな感情の思い出をいちいち引き出しから出してはこないのだけれど、誰だれかと話をしたとき、ふらっと外に姿を現すことがあります。たちまち相手の話と自分の感情の記憶きおくが重なって、胸が熱くなる瞬間しゆんかんが訪おとずれるのです。これこそが、



阿川 佐和子「一九五三」

東京都に生まれた。エッセイスト・作家。

著書に『聞く力』『見る力』などがある。

〈出典〉本書のために書きおろしたものである。

人に話を聞く妙味みょうみともいえます。

私がインタビューをした映画監督かんとくに言われたことがあります。

「そういえば子どもの頃ころ、一人で空想にふけるのが好きだった。あの気持ちをもう

一度味わいたくて、今、映画を作る仕事をしているんですね。今、気づきました。」

聞く方法は人によって違いちがいます。どういう聞き方が正しいかなど正解はありません。

大事なことは、聞いてみたいという気持ちと、聞いてみたら、もしかして相手

のことだけでなく、自分を知るきっかけになるかもしれないと思う好奇心こうきしんです。

どんな聞き方でもかまいません。ときどきでいいですから、耳を傾けることに集

中あたしてみてください。つらいとき、うれしいとき。どんなときでも、勇気や元気を

与あたえてくれるのは、草花や動物や太陽と同様に、さりげない言葉です。

10

5

妙味

なんともいえない、い
い味わい。